



いつも「トンガレポート」をご覧いただきありがとうございます。2016年10月にトンガ王国に到着してすでに半年が過ぎました。月日が経つのは早く2年の任期はすぐに終わってしまいそうです。早くトンガの卓球事情を伝えたいためピッチを早めてトンガレポートを作成しています。

頑張っていますが前回同様「話題の宝庫 トンガ王国」では卓球の話し以前に伝えたいことが多々あり今回どうしても卓球の話題を紹介するに至らなかったことを最初にお知らせしておきます。この後、トンガレポート<5>を卓球事情特集にするよう努力しますので再度この国の環境・文化・習慣についての話題紹介にお付き合い願います。

1、服装について

トンガの方々の服装は「男女ともスカート」が基本です。私もトンガに到着直後は「ん？」と思いましたが今ではすっかり見慣れた光景になりました。ただしスカートとは呼ばず「トゥペヌ」という名称があります。男女ともこの巻きスカート状のトゥペヌを着用しますが男性用と女性用では構造に若干の違いがあるそうです。画像①②はトンガの方々の平服姿です。



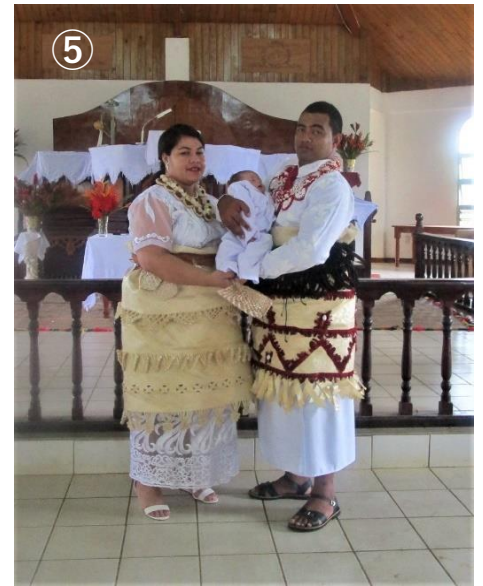
黄色丸が男性のトゥペヌ姿、黄色丸を付けていませんが画像②の右端の女性もトゥペヌを着用しています。

画像②では全員腰に何かつけています。赤丸の「腰蓑」または「縄のれん」状のものは「キエキエ」と言いこれは女性専用です。青丸の「腹巻」状のものは「タオバラ」と言いこちらは男女ともに着用します。トゥペヌ、キエキエ、タオバラいずれもトンガを代表する民族衣装で普段出会う人や街行く人はほとんどこのような服装であり洋服姿の人は少数派です。



画像③では女性のキエキエ(赤丸)、男性のタオバラ(青丸)姿が確認できます。特にキエキエはトンガの女性たちにとって「おしゃれ」を意識した装飾具となっているためデザインも多様です。

タオバラも状況に応じて使用する色・デザイン・サイズが何種類もあり各場面で使い分けされています。次に各場面におけるタオバラを含めたトンガの方々の服装(衣装)を紹介します。



④は教会内での様子。最前列、青服の方は男性、他は全員女性です。タオバラとキエキエ着用の女性を確認できます。なお、体格についてお気付きの方もいらっしゃるかもしれませんが。前もって大柄の方ばかりお集まりいただいたのではなく画像の皆様はあくまでトンガの方々の標準体型で、我々日本人と比較するとかなり大柄で「ぽっちゃり」の方が多いのですがこれがこの国の「普通」です。

⑤はこのご夫婦のお子様の洗礼時の様子です。日本と同じで祝事の際は「白服」が基調になるのは国が変わっても同じようです。そしてタオバラも祝事に合わせたデザインとなっています。



⑥⑦はお祭りやイベント時の服装です。⑥では女性のタオバラとキエキエ着用姿が確認できます。⑦の緑丸の男性二人は画像では確認いただけませんが服装の下はトゥペヌ(スカート)上はワイシャツにネクタイと背広、履物はサンダル。日本でこんな格好をしたらかなり奇妙な服装となってしまいますがこれがトンガの公な場における「正装」となります。

トンガに到着して半年の間、この国の歴史・文化・習慣を理解するためにさまざまな書物を読みました。ポリネシアの人々はその昔アジアからカヌーを使って各島々にたどり着いた歴史があるようです。あくまでも個人的な見解ですが⑦の画像を見ていると当時の実用的な衣服としての「腰蓑」が形骸化して現在のキエキエに変化したのかなと感じます。

最後は葬儀の際の服装です。これも日本と同様、葬儀の服装は「黒服」が基調です。葬儀用には普段より大きいタオバラを着用されます。⑧の中央の男性は喪主ではありませんがそれに近い立場の方です。「そこまでやるか」というほどの大きなタオバラを着用されており、思わず日本の僧侶の「袈裟」姿を連想してしまいます。



キエキエ、タオバラ ともにある程度恰幅のよい方によく似合い、トンガの皆様の体格に一致した衣装であると思います。私のタオバラ 姿などは貧相になってしまい想像すらしたくありません。

2、履物について

次は履物の紹介です。トンガの皆様の履物は「サンダル か 裸足」が基本です。これも日本を基準にしたら「ん？」っという気になります。サンダルはともかく裸足？ 今の日本でもし裸足 で歩いている人がいたらよほどの事情を考えてしまいます。

でもトンガで外出の際は必ず数名裸足で歩いている方を拝見します。舗装された道路でもガラス片が落ちていることもありますし未舗装の道路は角ばった小石だらけなので見ている方がケガを心配してハラハラします。でもそれがトンガの「普通」です。

右の写真の子供たちも全員 サンダル 履きです。写真ではわかりにくいのですが赤い制服の真ん中の子のサンダルはゴム製ではなく革製のためこのタイプの サンダル を履いている子供たちの学校帰りに雨が降ったときなどは サンダル を濡らさないようにあえて手にもって 裸足 で歩いている光景をよく見かけます。



サンダル の中でも圧倒的に多いのが「全天候対応国民的履物」とも言うべき ビーチサンダル です。写真は私のサンダルで、たまたまトンガの国旗付きバージョンですが、国旗なしで白や青の製品もあります。

このサンダルは日本円で約 300円でした。私は大雨の際シューズで練習場へ行けない時に使用します。鼻緒にテープ加工があるのは、その部分がすれて足の皮がむけてしまうのでその防止用です。サンダル履きだと同じ距離を歩いてもシューズより時間がかかるので私は苦手です。

服装の紹介で使用した写真で足元まで写っているものを再確認していただいてもほとんどの方がサンダル履きです。

シューズを履いている方は少数派で必ずジーンズ、作業ズボン、スポーツウエアなど洋服着用で若い方々にその傾向が見られます。なお履物を紹介しながら連鎖的に気付いたことが2つあります。

トンガに来て以来半年のうちにトンガ人女性のハイヒールとストッキング姿を一度も見ることがありません。大柄で「ぽっちゃり」の方が多いので特に細いヒールでは体重を支え切れなため不適という可能性が大いにあります。またビーチサンダルが主な履物のためそれにストッキングを合わせるとこれまた奇妙な姿になってしまいますし、そもそも特に女性はトゥペヌのように長い丈の衣服を着用し脚を露出する習慣がないためストッキングも不要のかなと思っています。

卓球協会の副会長も裸足派で一応練習場にはビーチサンダルでお越しになりますが、入場後はいつも裸足で過ごされます。時々彼の車に同乗させてもらう際にいつも裸足で運転されるので、運転しにくくないですかと尋ねたところ「これ（裸足）がいいのだ」と笑っていました。

やはり日本とは何事も「普通」の基準が異なり、面白くもあり驚きでもあります。



3、環境（ゴミの収集）についての補足

トンガレポート<2>で紹介したゴミについて補足説明します。一週間に一回のゴミの回収にしては量が多いと感じた方もいらっしゃると思います。

トンガではすべての家庭が庭付きです。加えて暖かな気候と適度な雨量により草木が大変な勢いで成長します。そのためどの家庭でも頻繁に庭の手入れをされます。頻度は各家庭により異なりますが、枯草の除去など軽いものは毎週一回、草刈りと枝の伐採などの大掛かりなものは月一回といったところです。ゴミの量が多いのはそのためです。我が家でもその日になると係の方がやってきて庭の手入れをしていきます。



写真は我が家の大掛かりな庭掃除後のゴミです。写せませんでしたでしたが向こう側にもう一袋隠れています。回収日の前夜、門前にゴミを置いておくのがこの国のルールです。この量を私一人で門前に運ぶのは大変難儀でしたが卓球のトレーニングと思い、腰を入れて何とかすべて運び終えました。この先、トンガに滞在中は度々同じことをしなければならないと思うと気が重くなります。

4、郵便・通信事情についての補足

次にトンガレポート<3>で紹介した郵便についてその後、新たな事実がわかりましたのでお知らせします。

トンガでは村や地区、通りの名前まではありますが、そもそも○丁目△番地といった表記はないそうです。従ってトンガレポート<3>で隊員のホームステイ先の住所が「国名・島の名前・村の名前・主の名前」しかなく驚いたと紹介しましたが、逆に今となってはそれしか言いようがないということがわかりました。

システムとして一部の契約による郵便配達以外、基本的に郵便配達自体がなく全部私書箱を利用して郵便物を受け取ります。全世帯が私書箱を持っているわけではないので地区の代表者や親戚・縁者、会社勤めの方は会社、それぞれの私書箱あてに郵便物が届き私書箱を確認に行った方が郵便配達を代行して自分以外の郵便物を本人に手渡しするとのことでした。

いま日本では宅急便の量の多さが問題となっていると伺いました。トンガで郵便や荷物は「配達される」ものではなく「取りに行くもの」として認識されています。将来、日本でもそのように認識が変わる時代が来るかもしれません。

以上、卓球の話題前にどうしてもお伝えしておきたかった服装と履物の状況、およびゴミと郵便事情の補足をしてトンガレポート<4>を終わりにします。まだまだ話題はあります。それは後回しにして次回はいよいよ卓球の話題（これだけでも一度でお伝えできるか不安です）を紹介予定です。